

全国学校ギター合奏コンクール2016 審査講評

10.埼玉県立大宮高等学校ギター部

課題曲 Spring 1 "In the forest"

自由曲 カプリオール組曲より第1,4,5,6楽章／P.ウォーロック(小林徹編)＜指揮者:北村裕帆＞

審査員名	課題曲	自由曲
有馬	41名になると41個の個性があるものですが、それらがよく、ここまで1個になれたものと感心します。表現力も豊か、テンポの増減も不自然さなく、当然のように流れています。強弱のつけ方もごく自然体です。ギター自体の美しさを充分に出し切れていたと思います。	ギター合奏の本来の美しさをくまなく表現していると思います。変にトレモロや叩く奏法を入れない自然の美しさが良いです。編曲が良いし、あなた方の表現がまた素晴らしい!! スタカートや余韻を残す対照感も良いです。あえて難を言うと、曲がいまいち退屈。最後の6楽章がちょっと妙だけれど面白かった。
小胎	音色○。各パートのバランス良い。ダイナミック中良。	音色○。細かい部分までよく弾けている。
小林	p、f、クレッシェンド、デクレッシェンド、しっかり表現出来て、パート内の受け渡しバランスも良かった。終わり方もっていいいにffでしっかりと。	組曲の1曲1曲の変化をよくとらえ、ていねいな良い演奏。音色と音量の変化でしっかり演奏できた。
富田	お辞儀の間をとりすぎ。よい演奏でした。	指揮者はアナリーゼをして、どこにアクセントがあるのか、リズムの面白さを演奏者に伝えられるように。特に5楽章はすべて3拍の大振りですまらないかも…
竹内	品の良さは大変すばらしい。音楽の向かうところも明確にされ、よくアナリーゼされていると思う。内声のテーマがあと少し聴こえると良いか。バスラインの付点四分音符、八分・二分音符というシンコペーションを含んだ音は、八分音符シンコペ音がもっと強調されるとリズム感が出そうだ。	ドミナントがトニックに収まるところが、本当に収まったように弾くのかあえて収まらないようにするのか、といったことは解釈にとって重要になる。5楽章は和声的によく練られていたと思うが、1楽章に工夫が欲しかった。
長尾	ダイナミクスの変化と音色の変化がよく合っている。低音がよく鳴っている。指揮の1拍目の打点を叩きつける動きは点前拍を意識しよう。	ppの粒揃えをもっとみがいて。フレーズの頭をよく合わせているので全体構成がよく見えてくる。緩徐楽章で思い切って音色に変化を持たせては？選んだ4つの楽章の中で効果的な構成を考えてもいい。

【問い合わせ先】

全国学校ギター合奏コンクール2015開催事務局(現代ギター社内)

Mail : jsgcec@jsgcec.net